



九州支部「第25回日本生物工学会 九州支部鹿児島大会」報告

第25回日本生物工学会九州支部鹿児島大会を2018年12月1日（土）、鹿児島大学農学部にて開催いたしました。鹿児島県での開催は、1998年度、2006年度に続いて3回目になります。大会参加者数は144名（一般66名、学生78名）に達し、講演数は73題（一般講演47題、学生賞応募講演26題）を数え、晴天にも恵まれて大盛会でした。9時30分から一般講演を2会場で、10時から学生賞審査を2会場で行いました。朝から夕方まで、どの会場でも熱心な質疑応答が行われました。学生賞は修士課程・博士課程の2部に分けて、九州全域からお越しの8名の審査員によってそれぞれ厳正なる審査が行われました。お忙しい中、座長ならびに学生賞審査をご担当いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。昼の休憩時間には、支部評議員会・役員会も開催されました。

13時から、光富勝支部長に支部会開催のご挨拶いただきました。その後、本学会会長で早稲田大学理工学術院・先進理工学部教授の木野邦器先生から「生産現場から学ぶ知恵と新たなバイオプロセスの開発」と題して特別講演をいただきました。最近のバイオテクノロジーの話題から、アミノ酸発酵工業の現場において生じた課題の解決事例、本研究分野における新たな可能性や将来の展望まで大変示唆に富んだ講演をいただきました。また、「研究を楽しむこと」の重要性を説かれ、学生および若手研究者への熱いメッセージをいただきました。

17時45分より、恒例のミキサーを学習交流プラザにて開催いたしました。光富勝先生の開会の挨拶の後、実行委員の高峯和則先生より、鹿児島県内の飲料および酒造メーカーからご寄贈いただきました清涼飲料水、ビール、焼酎などについてのご紹介がありました。その後、木野邦器先生に乾杯の発声をいただきました。ミキサーには多数の大会参加者へ出席いただき、お酒と料理を楽しみながら、情報交換や交流が深められました。宴もたけなわの半ばに、学生表彰の授賞式が行われました。本年度の受賞者は8名で、博士課程の部は岸本聡さん（鹿大院・理工）「新規二重特異性抗体の開発を目指したアフィニティーペプチドによるIgG抗体特異的修飾法の開発」の1名、修士課程の部は馬場嵩一朗さん（佐賀大・農）「有明海から分離した清酒酵母の変異処理によるリンゴ酸高生産株の育種」、前田大樹さん（九大院・工・化工）「トランスジェニックニワトリ作製のための胚細胞ゲノム編集技術の開発」、田中悠佑さん（九大院・工・応化）「直交型酵素触媒反応を用いた高活性キチナーゼ集合体の設計」、吉村京一さん（九大院・農）「環状バクテリオシン、ラクトサイクリンQの生合成機構の解析」、福原芳樹さん（鹿大院・理工）「化学架橋剤フリーな疎水化ゼラチンゲルの疎水基炭素鎖長が疎水性薬剤の吸着・放出挙動に及ぼす影響」、溝口尊春さん（九大院・生資環）「複合微生物系によるメタ乳酸発酵プロセスの再構築と機能解析」、藤原由梨さん（九大院・シス生科）「絶対定量メタボローム解析の実用化に向けた安定同位体ラベル化内部標準群のバイオプロダクション」の7名でした。光富勝支部長から各受賞者に賞状と記念品が贈呈され、受賞者より一言ずつコメントと今後の抱負を述べてもらいました。受賞者の皆様の更なる飛躍をお祈りします。再び歓談を続けた後、最後に大会実行委員長の本一締めにより、ミキサーを盛況のうちに終えることができました。

2019年度は、長崎大学の小田教授を実行委員長として12月7日（土）に開催される予定です。多くの皆様のご参加を期待しております。
(安部 淳一)



会場の鹿児島大学郡元キャンパス



ミキサー会場にて光富支部長と学生賞受賞者の面々